

ティラミスの「ふるさと」を訪ねて

在ミラノ総領事館
濱野敦史専門調査員

日本でも大人気のデザート・ティラミスは、一説によるとトレヴィーゾという町が「ふるさと」だそうです。ティラミスというお菓子の名前は知っていても、トレヴィーゾは初耳という方がほとんどではないでしょうか。

トレヴィーゾはイタリアの北東部に位置するヴェネト州にあります。ヴェネト州の州都は水の都として有名なヴェネツィアで、こちらは知っているという方も多いでしょう。そのヴェネツィアから北に30キロほどの場所にトレヴィーゾがあります。

今回、地方連携推進室の任地内出張のスキームの一環として、両宮在ミラノ総領事と私はそのトレヴィーゾを訪問し、日本文化交流や地方都市交流について視察や意見交換をしてきました。

最初にたどり着いたのは、「Ikiya」というお店です。ここはエリザベッタ・グロッソさんが経営する日本の食品と品物のお店で、トレヴィーゾにある「日本」といった場所でした。トレヴィーゾは人口が8万5千人ほどの地方都市ですが、そんなところでも日本を感じられる場所があるくらい、北イタリアでは日本ブームが起きているのです。

グロッソさんは「Nipponbashi」という文化協会の会長も務めていて、日本文化の普及にも熱心に取り組んでいます。とくに夏に開催している「Nipponbashi Matsuri」では百鬼夜行や灯籠流しなどをしていて、毎年、多くの人が押しかけています。



グロッソさんと両宮総領事



さて、お腹が減ってきたので昼食です。デザートには「本場」のティラミスを頼まないわけにはいきません。でも、出てきたティラミスには言葉を失ってしまいました。ハチミツの空き瓶にぎっしりつまったマスカルポーネ・チーズにもびっくりですが、上にかかっているはずのココア・パウダーが見あたりません。聞いてみたところ、地元のオリジナル・レシピではココア・パウダーを使わないそうです。それでも、濃厚な味とイタリアならではの甘みの強さは変わりません。

昼食後はトレヴィーゾ市庁舎を訪問して、ルチャーノ・フランキン友好都市担当評議員（助役）に面会しました。

トレヴィーゾ市は2013年に愛知県一宮市の友好都市になりました。それ以降、両市は活発に交流を続けています。2016年度にはトレヴィーゾの柔道クラブの選手が一宮市内の学校で練習に参加する一方、イタリア遠征に参加した高校生がトレヴィーゾを訪れました。また、一宮市の中学生は毎年、イタリアを訪問しており、トレヴィーゾ

の学生や市民と文化交流などを行っています。

2015年からは補助事業を利用して一宮から3つの市民団体がトレヴィーゾを訪れて、学生との文化交流、料理交流、経済交流を実施した実績があり、今後もこうした交流を続けていく予定だそうです。

一方で、フランキン評議員によれば、これまでトレヴィーゾ側から一宮に出かけていった例が少ないため、今後は日本にトレヴィーゾ市民を送り出して、関係を本当の意味で双方向のものにしたいと考えているそうです。

それを実現するためには、自治体の予算だけでは不十分で、今後は民間企業の力を借りていく必要があるということをフランキン評議員は強調していました。交流の主役は民間で自治体はあくまでそのお手伝いという考え方をこれからどのように実現していくかが今後の課題となりそうです。

最後に話題はやはりティラミスに戻ってしまいました。トレヴィーゾでは昨年「ティラミス・ワールド・カップ」が開かれ、700人近いティラミス自慢が味を競い合ったそうです。ぜひ日本の皆さんにも参加してほしいとのことでした。いつか日本人が優勝する日が来るかもしれません。



フランキン評議員(右)

市庁舎を後にした私たちは、ガッレリーエ・デッレ・プリジョーニへ向かいました。ここは昔の刑務所を改装した美術館ですが、7月から11月まで、広島、長崎、アイヌをテーマにした現代美術の展覧会が開かれています。訪問時にはまだ展覧会は開かれていませんでしたが、展示される作品はルチャーノ・ベネトン氏(ベネトン・グループの創始者、トレヴィーゾ生まれ)が収集したコレクションとのことで、世界的な起業家も日本に興味をもっていることがうかがわれます。

ところで、本当のところ、ティラミスがどこで生み出されたのかはよくわかっていません。ティラミスの主な材料のマスカルポーネ・チーズはもともとロンバルディア州の特産物、その中に入っているサヴォイアルディという名前のビスケットは本来ピエモンテ州の名物と、地元愛にあふれすぎてよその地方のものにあまり目を向けないイタリアでは不思議な組み合わせでつくられています。

でも、細かいことは気にしないことにしましょう。ティラミスはイタリアを代表するお菓子となり、日本でもよく知られるようになりました。ある意味で、ティラミスは日本とイタリアを結びつける役割もしているといつてよいでしょう。

ちなみにティラミスは「私を引っ張り上げて！」が直訳で、そこには「私を元気にして！」という意味があります。ティラミスを食べるときは、ほんの少しだけイタリア、そしてトレヴィーゾのことを考えながら、あまい時間を楽しんで、元気を出してください。